

テオ・ヤンセン展出品作品リスト

※展示作品は変更される場合があります。すべてが、美術館で展示されるとは限りません。

【グルトン期】1990～91年



アニマリス・ヴァルガリス

0.6 × 2.0 × 2.5m

現実世界に初めて登場したビーチアニマル。
粘着テープで接合され、立つことも、歩くこともできなかった。

【コルダ期】1991～93年



アニマリス・カレンス・ヴァルガリス

1.4 × 2.1 × 2.0m

立つこと、歩くことができた最初のビーチアニマル。
チューブの接合に糸が使われた。

【カリダム期】1993～94年



アニマリス・サブローサ・アドレセンス

2.8 × 4.5 × 2.0m

4枚の羽で動き、ギア・ボックスで動きが制御できた。また、地面に穴を掘ることもできた。



アニマリス・カレンス・ヴェントーサ

3.2 × 5.5 × 4.0m

その名は、風に乗って走るビーチアニマルという意味。
脚部の機構を決定づける「聖なる数」による初めてのモデルで、大きな羽で、風を受けて歩行した。

【タピディーム期】1994～97年



アニマリス・ジェネティクス

1.5～1.8 × 2.5 × 2.0m

交換可能な357本のチューブ(遺伝子)できている。
5体の群れで生活し、歩行速度の速いもののチューブ(遺伝子)に随時交換されていき、その後のアニマルにも受け継がれた。

【リグナタム期】1997～2001年



アニマリス・リノセロス・リグナタス

1.6 × 2.4 × 2.0m (250kg)

リグナタム期はプラスチックチューブを離れ、金属や木材を素材にしたアニマルが生み出された時期。
木材パレットのサンドイッチ構造をつないで作られている。

【ヴァポラム期】2001～06年



アニマリス・ルゴサス・ペリストハルティス

0.5 × 1.3 × 0.4m

背中が折り曲げたチューブで作られており、芋虫のように、波打つように動く。

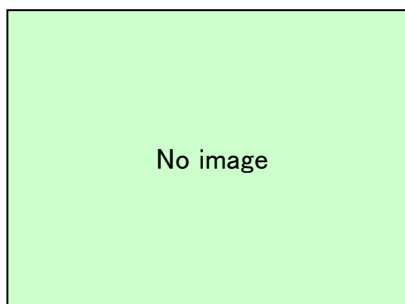


アニマリス・ベルミキュラス

1.6 × 5.0 × 0.8m

この時期、動力がペットボトルに貯め込んだ圧縮空気にかわった。
この構造をテオは「筋肉」と呼ぶ。
ベルミキュラスは28の筋肉を持ち、蛇行するように動いた。

【ヴァポラム期】2001～06年



アニマリス・ヴァポリス

0.8 × 2.3 × 1.4m

4つの「筋肉」を持った最初のビーチアニマル。
チューブの内側に出たり入ったりするチューブを持ち、ピストン運動をする。

【セレブラム期】2006～



アニマリス・ペルシピエーレ・レクタス

2.0 × 10.0 × 2.0m

「セレブラム」とは脳の意味。
チューブと弁を組み合わせた神経細胞を持つようになり、地面に垂れた感触器が水を検知すると、方向転換するようになった。



アニマリス・ペルシピエーレ・プリマス

3.0 × 10.0 × 2.0m

重量のある翼を車輪で支える。
神経細胞を組み合わせた歩数計をもち、過去に水を検知した記憶から、水際から3歩手前で停止し、方向転換できた。



アニマリス・モデュラリウス

3.7 × 12.0 × 2.0m

背中のペットボトルに空気を貯め、それを吐き出して歩行する。また、強風から身を守るため、杭を打ち込み、体を固定することができる。



アニマリス・オルディス

2.0 × 3.5 × 2.0m

自動車メーカーのテレビCM用に作られた小型のビーチアニマル。左右の羽で風を受けて歩く。



アニマリス・シアメシス

4.4 × 8.0 × 5.0m

昨年生まれた最新のビーチアニマル。2つの胴体を持つが、それぞれの羽を共通のクランクでつなげている。全部で72本の脚をもち、歩行する姿は圧巻である。

◆ビーチアニマル デモンストレーション

会期中、会場内で、動くビーチアニマルを見ることができるデモンストレーションを行います。

- 実施時間 毎日午前10時30分から1時間ごと。(最終実施時間 午後5時30分～)
- 所要時間 約20分間
- 動くビーチアニマル

アニマリス・モデュラリウス

アニマリス・シアメシス

アニマリス・オルディス

※上記リスト中の赤文字の作品